

新型コロナに対応する生活スタイルが定着して2年目となる今年の春イベントは、京都の桜風景を愛でることにしました。4月1日9時30分京都駅集合で、7名の参加者がありました。海外からの観光客が桜を背景に写真を撮っている姿も目立ち、コロナ前に少しずつ戻ってきたことを肌感覚で実感した一日でした。

蹴上インクライン



出発前に集合写真



琵琶湖疎水は昭和23年まで舟運ルートとして活用され、疎水上を運航してきた舟ごと台車に載せ高低差36mの斜面を昇降する傾斜鉄道・インクラインを使って舟を南禅寺舟場まで運搬しました。この昇降用に蹴上



発電所の水力発電が使われ、ペルトン式水車とスタンレー式発電機が琵琶湖疎水記念館に展示されていました。戦後、舟便が廃止になりレールのみが残されています。インクライン約580mの両側には約90本のソメイヨシノが植えられているそうです。琵琶湖疎水記念館から、夏日となった中を、日陰を求めながら、白川通を通り、冷泉通りに出て哲学の道(南端)まで歩く、人通りは少ない。

地下鉄東西線の蹴上駅で下車し、インクラインを歩く。



哲学の道を歩く



若王子神社と銀閣寺の間を結ぶ、約2kmにわたる散歩道

で疎水の両側に植えられた桜は、日本画家・橋本関雪と妻・よねが、大正10年に京都市に300本の桜の苗木を寄贈したのが始まりと言います。



平野神社へ

「銀閣寺道」から「北野天満宮」迄バスで移動し北野上七軒にある「紅梅庵」で昼食。



食事休憩後、北野天満宮を抜けて平野神社へ。約60種類ある満開の桜が迎えてくれました。

